

REPORT SHEET OF COIL EDUCATION



担当教員名	山岸 敬和、小野 詩紀子		所属 (学部学科)	国際教養学科、国際センター
実施年度・クォーター	2021・Q3			
授業名	南山	国際産官学連携 PBL D2		
	パートナー	Business Japanese		
カテゴリ	ベーシック COIL	アカデミック COIL	PBL COIL	
パートナー教員名	Tomoko Hoogenboom	パートナー 所属	University of Maryland, Baltimore County (UMBC)	
参加 学生数	南山	9名		
	パートナー	8名		
使用言語 (複数回答可)	英語と日本語			
使用ツール (複数回答可)	Slack, LINE など (各グループの選択による)			
交流内容 (概略)	最初の同期形のセッションでは、アイスブレイキングに加え、この授業のテーマとなった南山大学主催のアニメ・マンガ留学プログラム構想についての説明のためオリエンテーションを行いました。その後は、このプロジェクトにおける課題「アニメ・マンガ留学プログラムにおける東海地方のフィールドトリップデザイン」について、南山生・UMBC 生がグループで課題解決に取り組みました。主に南山生が東海地方の旅行先の調査を行い、UMBC 生はアメリカでアンケートを使用しニーズ調査を行いました。交流は、学生主体で、授業外で行われ、最終プロダクトとして10分のフィールドトリップ提案のビデオを作成しました。			
期間・回数	7週間、交流回数 (授業内同期型：1回、授業外非同期型：5~7回 (グループによる))			
評価方法	提出物、課題 30% 最終プロジェクト 24% 最終レポート 36% 授業内外での取り組みへの積極性 10%			

## コメント

両大学の学生が、自分の役割を担い活発な交流を通して最終発表を作成することができました。本プロジェクトでは、留学生の日本旅行に関するニーズ、留学プログラムを主催する南山大学の想い、東海地方を活性化するという地方創生の視点という 3 方よしのアイデアを作り上げるというとても難しい内容に取り組んでもらいました。そのため、授業では「各グループのアイデアを共有→フィードバック→再考」を繰り返し、中間発表では外部の講師陣もお招きしてフィードバックをいただきました。南山生は、授業中にグループの進捗や、フィードバックを共有することで、刺激を受けアイデアをブラッシュアップさせることができたコメントしています。

一方で、反省点としては、アイデアをブラッシュアップしていく過程に、UMBC の学生を巻き込むための授業デザインをしきれなかったという点があげられます。今回は時差の関係で、各グループに UMBC 生への授業のフィードバックを任せていましたが、今後は外部講師陣のフィードバックを同期型で聞くというマイルストーンを授業内にデザインしておく必要性を感じました。